

宮本健郎先生を送る

遠山 潤 志 (物理学教室)

宮本健郎先生は昨年11月20日にめでたく還暦をお迎えになり、今春3月をもって東京大学を定年御退官になられます。

先生は昭和30年東京大学理学部物理学科を卒

業され、同年株式会社日本光学に入社されました。昭和34年から36年までロチェスター大学光学研究所に留学され、同大学からPh.D.の学位を授与されました。更に昭和38年には東京大学から工

学博士の学位を授与され、昭和 39 年に名古屋大学プラズマ研究所助教授になられました。昭和 47 年同教授になられ、昭和 54 年東京大学理学部教授に就任されました。昭和 61 から 62 年まで東京大学大学院理学系研究科物理学専攻主任、平成 2 年から 3 年まで物理学教室主任を務められました。

今更申し上げるまでもなく、先生は我が国におけるプラズマ物理学・核融合の理論及び実験の中心として指導的な研究をされ、かつまた優れた教育をされてきました。即ち、名古屋大学プラズマ研究所においては、当初ミラー装置 BSG の実験に参加され、その後同研究所で初めてのトーラス装置、ステラレータ JIPP - I を建設されました。さらに、ステラレータ、トカマク兼用装置 JIPPT - II のリーダーとして活躍され、東京大学理学部物理学教室に移られてからは、工学部原子力工学科と共同で、逆転磁場ピンチプラズマ装置 REPUTE - 1 を建設し研究されました。このようにステラレータ、トカマク、逆転磁場ピンチとトーラス装置全般にわたり、プラズマ閉じ込めの研究に華々しい成果を挙げてこられました。また、先生の著書には「核融合のためのプラズマ物理」「プラズマ物理入門」(共に岩波書店、MIT Press) などがあり、名著となっています。さらに、先生は物理に対するあふれんばかりの情熱をもって講義にあたられ、多くの学生を啓蒙してこられました。

先生は学内の要職だけでなく、九州大学応用力学研究所客員教授、日本原子力研究所核融合研究委員会委員、電子総合技術研究所核融合研究委員会委員、日本学術会議物理学研究連絡委員会委員、プラズマ・核融合学会理事、科学研究費核融合特別研究評価委員会幹事、学術振興会審査委員会委員等、我が国物理学界の指導的な職に就かれ、長期的視野をもって個々の問題に積極的に取り組まれ、それぞれの組織の発展の基盤を作られました。

先生のお人柄を一言で形容するならば、「英国紳士」に異論はないでしょう。先生の服装、立ち

居振舞いをみれば、だれもが納得すると思います。先生の最終講義の案内が二度まわってきたのに気付かれた方もあると思います。最初の案内に「ついては特に自分にとって楽しかった実験について裏話を含めて話すつもりである。」という一節がありました。最終講義では英国紳士スタイルを止められるのかなと楽しみに思っていたのですが、山本先生の文が紛れ込んでいただけでした。いくつか先生のお人柄を示す例を挙げますと、研究室のテニス旅行にもよく参加され、きれいな無理のないフォームで打たれていました。ロチェスターで磨かれたダンス姿を拝見したことはありませんでしたが、華麗だと推察致します。お嬢さんはバイオリニストですが、先生御自身もクラシック音楽がお好きです。また先生の居室が実によく整頓され、すっきりしていることをご存知の方も多いと思います。多分物理学教室一でしょう。見習おうとしましたが、持ち前のセンスの悪さでは如何とも出来ず、ただ時々ミーティングに使わせてもらうだけでした。

先生の才能の一つに、脳へのインプットにすばらしいノイズフィルターを持たれていることを挙げる事が出来ます。ミーティングなどでつまらない俗事はきれいさっぱり忘れてしまわれますが、大事な物理の公式、常識などはしっかり頭の中にあり、研究室セミナーで我々がもたもたしていますと、立ち所に黒板にすらすらと書かれ議論されます。我々は物理は覚えてなく俗事だけを覚えていきますから、グループの運営では時々行き違いが生じました。プラズマ研究所時代、提出する事務書類(例えば扶養家族届のような書類)は奥さんが研究所の秘書に電話し、今日これこれの書類を持たせましたから受け取ってくださいと言っていたという話も聞いたことがあります。

複雑な現象から枝葉末節を切り落とし、単純明快に物事の本質を捉え、物理法則を求めることが物理学だと思いますから(異論はあるかもしれませんが、特に noisy で再現性の悪いプラズマ実験ではこのことが不可欠です)、先生は真の物理学者

と思います。この特殊能力が持って生まれた才能によるのか、トレーニングによるものかは伺うのを忘れました。

先生御自身は実験家と称されていますが、私からみると理論家に近く、何をしろという命令を出さずに大学院学生に自由に実験させ、出てきた実験データを議論するという研究スタイルを取ら

れていました。その結果、卒業後自分から積極的に仕事をする学生が輩出し、現在各界で中堅として活躍しています。

これからもプラズマ・核融合の分野でご活躍を続けられご指導いただくことをお願いして筆をおきます。